

あびこ市民活動ネットワーク会報

令和元年7月15日発行 第50号 発行責任者 宇野真理子 我孫子市湖北台 4-11-16

新年度事業の始まりです

令和の始まり、実りある年に向けてご協力を！

あびこ市民活動ネットワーク 代表 宇野 真理子



今年も早いもので年の半分が過ぎ振り返り地点を迎えました。皆様のご協力で4月23日に総会を終了することができご協力に感謝いたします。

あびこ市民活動ネットワークは、7月で設立から13年目を迎えます。今まで私達が力を注いできたことは、一人でも多くの方に市民活動に興味を持ってもらうこと、そして活動の担い手になってもらい一緒に住みやすい地域づくりに貢献していただくことでした。

しかし、少子高齢化や働き方改革等もありなかなか担い手不足から脱却ができていません。

『前進あるのみ』の気概を持って、今年も事業を進めていきます。指定管理者との協働で防災関連とこども応援団関連事業を予定しています。また高齢者分科会では地域包括ケアを考えるための一歩として「日常生活困ったときガイド」の活用方法等についてお話を伺うことにしています。また会員の皆様からのお声をもとにクリーンセンターの建て替えやタイムリーな話題を取り上げて、担当部局との懇談会等を行っていきたいと思っております。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

定時総会報告

平成31年度あびこ市民活動ネットワーク定時総会

あびこ市民活動ネットワークは、平成31年度定時総会を、平成31年4月23日(火)午後1時からアビスタ小ホールで開催した。参加会員は出席26、委任状21と合わせて47団体・個人で、総会員76団体・個人の過半数となり、総会は成立した。

冒頭、宇野代表から「当団体は7月で13年目となる。昨年からはあびこ市民活動ステーションと協働で活動を展開し、大人、子どもを巻き込んで活動の幅を広げてきた。国も共生社会を目指しているおり、

大きな家族という考え方で多世代を巻き込んで市民に参加していただき、住みよいまちを作りたい。

会員の皆様よろしくお願いいたします」との挨拶があった。

その後、来賓の我孫子市青木章副市長から、「我孫子市は住宅都市なので、人口が減ると元気がなくなってしまうので心配だ、市民からのニーズや課題も複雑多様化しており、行政のみでは難しい

ので市民との協働が大切だ。今年度は『市民公益活動の指針』の見直しにあたり、新たな視点での改訂を考えているとのお話があった。



この後、宇野代表を議長に選出、以下の議題がいずれも了承された。

1. 平成 30 年度事業報告
2. 平成 30 年度決算報告並びに監査報告
3. 平成 31 年度事業計画案
4. 平成 31 年度予算案
5. 平成 31 年度役員人事案

総会后、阿部剛CRファクトリー理事・松戸市市民活動センター長を講師に記念講演『担い手不足から抜け出そう』が行われた。（内容は後掲）

（総会書記 柳川・遠藤）

総会後の記念講演

「担い手不足から抜け出そう！ …仲間に巻き込む3つのポイント…」 ～「興味」「愛着」「主体」の流れで、活気ある組織をつくる～

NPO法人CRファクトリー理事・松戸市市民活動センター長 阿部 剛



皆さんから、「募集しても人が集まらない」「高齢となり活動をやめる人が増えた」など、担い手になってくれる方がいないとの話をよくお聞きします。

今まで、あびこ市民活動ネットワークでは、担い手確保のために様々取り組みを行ってまいりました。しかしながら、現状は相変わらずの状況なのは皆さんご承知のとおりです。

今回、担い手不足から抜け出すにはどう取り組んだらいいのかを、皆さんで考えようという企画とい

事業計画案に関して、会員から「全会員宛メールの発信、連携の強化のためにもPCメールにとどまらずスマホメールも活用してほしい」とのご意見があり、事務局から「メールアドレスを連絡していただければ送信する」との回答があった。

たしました。

参加された方からは「次の世代につなげるためには、今活動している自分たちの思いではなく、対象となる人達の生の声を聴くことが大事であり、そこが今まで自分たちになかったことなんだということを感じました。自戒を込めて反省します。」

「今まで単に担い手がいなかったと言っていたが、新しい方たちに参加してもらうためには、自分たちの組織が、新しい方が参加できる体制になっているのかを再度チェックしなければならないと思った。」など今までの自分たちの取り組みへの反省の言葉が多くありました。

【講師の紹介】

NPOを支援するコーディネーターとして職能を磨き、文部科学省のモデル事業を始め、行政との協働を多数経験。千葉県松戸市で官設民営の中間支援施設でセンター長を担っている他、民間の学童保育を運営するなど、ローカルな現場と中間支援の立場を往復しながら活動中である

【講演の趣旨】

担い手不足を抜け出すためには

- 1、理念・ビジョンを共有する。
- 2、上位のプロセスから参画してもらい、上位の目的を共有する。
- 3、お金以外の報酬に着目する。
- 4、多様な関わり方をデザインする。

5、人を巻き込む基本的な考え方

興味・・・このイベント面白そうだな

(広報で認知度を上げる。イベントを企画運営するなど)

愛着・・・この団体居心地いいな

(リピーター、常連を生み出す。場づくり・関係づくり)

主体・・・この団体のために頑張りたいな

(役割と出番をつくる。担い手・スタッフに口説く)

6、チラシの作製について(新しい人たちと出会うためのポイントの一つとして)

まず来てほしい人はどんな人たちなのか。作成は誰がやっているのか、対象者と世代が違おうとずれが出る。対象の方たちに意見を聞く、また作成をまかせてしまうなどで工夫していく。

以上、紙面の関係から簡単な項目だけ掲載しましたが、それぞれの項目に対して丁寧な説明があり、自分たちの今までの活動を再確認すべきだと痛切に考えさせられた次第です。 (担当幹事 富野浩司)

各分科会の今年度活動方針および活動状況

【防災分科会】

まち協単位の防災講座を実施 我孫子南、新木両まち協で92人が参加

防災分科会は、今年度最初の企画として、あびこ市民活動ステーション、我孫子南まちづくり協議会とタイアップした「地域防災自助力・近助力向上基礎講座」を6月8日(土)午後、けやきプラザ9階ホールで開きました。

これまでの「地域活動はじめての一步講座」防災講座を、地域別に展開する初めての講座として開催したもので、当日は我孫子南まちづくり協議会管内の皆さんなど総勢52人が参加、自主防災の基礎知識を学び、グループ別話し合

いで防災意識を高めました。

最初に、元東京消防庁レスキュー隊の高野甲子雄さんから災害時の対応についての基礎知識を学び、そのあと災害時の応急対応の技法の例として、段ボールトイレや、新聞紙スリッパの作り方を実習しました。

そのあと、8グループに分かれて、自助、近助のためには何が大切か、今後何に取り組むべきかを話し合い、各グループが話し合いの要点を発表、講師からの追加コメントがあって、日程を終わりました。



この我孫子南まちづくり協議会に続いては、

7月6日(土)午前、同じくあびこ市民活動ステーションとタイアップして、新木地区まちづくり協議会と共催で「地域防災自助力・近助力向上のための避難所運営訓練」を実施しました。

この日は新木地区まち協管内の自治会関係者の皆さんなど40名が参加、

6グループに分かれて元東京消防庁レスキュー隊



の高野甲子雄さんの指導で避難所運営訓練(HUG)に取り組みました。この訓練は殺到する様々な避難民を、どこに、どのように収容してゆくか、その間に発生するトラブル、苦情などをどうさばいてゆくか、などを即断してゆく訓練で、避難所運営の基本課題を知ることが出来ました。

当分科会は、この2つのまち協関係者の感想などを確かめながら、今後どうフォローしてゆくかを検討します。

白山中おやじの会の防災講座に協力

我孫子南まちづくり協議会との協議の中で、同まち協管内の白山中学校おやじの会が防災活動に関心があることが話題となり、同会が9月21日（土）から22日（日）にかけて白山中学校で開く催しで、防災講話、避難所ノウハウ説明などの協力をすることになりました。 **（担当幹事 多田正志）**

【地域包括ケア分科会】

我孫子市地域包括ケアの体制作り・課題、および市民活動団体への期待について 説明会および懇談会を開催します

平素は我孫子市の市民活動や健康福祉向上のために尽力頂き、誠にありがとうございます。このたびは、地域包括ケア体制整備の一環として、我孫子市地域高齢者ささえあい会議による独自の「高齢者のための日常生活困ったときガイド」を発刊された由、今回ガイドの発刊を機会に、同ガイド発刊の狙いやこれを手始めとする今後の我孫子市の地域包

括ケアの体制づくり、特に市民活動団体への期待などについて当ネットワーク会員が学ぶ説明会を開催いたしたい、と考えています。

説明会終了後に分科会にて地域包括ケアの課題について懇談会の場を設けます。

つきましては、ご多忙中恐縮ですが、是非ご参加お願いいたします。 **（担当幹事 吉田 充）**

説明会および懇談会開催日時・場所

日時 : 令和元年7月24日（水）

午後13時30分～15時30分

場所 : 手賀沼親水広場・水の館

【こども応援団分科会】

2019年度は二つの事業を予定しています

子ども分科会は、昨年度と同様に、当事者と共に計画し実施する子ども応援団事業をあびこ市民活動ステーションと協働で行います。

1. 2019年1月に実施した「生きづらさからの大脱出」では、悠々ホルンさんの歌とお話に加え、生きづらさを抱えている方で、社会に復帰しようとしている方々の声を聞くことができ、多くの方に喜んでいただきました。アンケートでは継続の要望が多かったので、そのパートⅡを予定しています。生きづらさから脱出して、現在社会で働き、今度は支援する側の活動を行っている方に声をかけています。前回参加した方、できなかった方、もっと多くの方々に情報を届

け、生きづらさを抱えているご本人やご家族を理解し支援する地域づくりを目指したいと思っています。前回の会のあと立ち上げた勉強会を中心に、企画を練っているところです。

2. 次に、あびこ市民活動ネットワーク会員の関係団体とコラボして、子育て中の家族が親子で参加できるイベントを予定しています。我孫子の地域性を生かし、おとなも子どもも楽しめる参加型の会にしたいと思えます。皆様のアイデアを募集中です。

どちらも日時、詳細は未定ですが、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

（担当幹事 柳川眞佐子）

【個人会員分科会】

あびこ市民活動ネットワークには53団体のほかに、現在23名の方が個人会員として登録しております。これら個人会員の皆さんは特定団体からの選出ではありませんが、ほとんどの方が何らかの市民活動をしておられますし、市民として市民活動については高い関心をお持ちです。

このため、かねてから毎年1~2回、個人会員の皆さんに参加を呼び掛けて、個人としてどんな市民活動をしておられるか・市民として市民活動や市民活動支援に何を期待しておられるかなどをお聞きし意見交換する機会を持ってきました。

昨年度は7月2日にあびこ市民活動ステーションで参加者11名で会を持ち「地元で始めた健康麻

雀クラブが大盛況」、「高齢者向け歌う会の講師で忙しい」、「鉢植えの古い土の処分相談に応じている」などの報告をお聞きしました。

また宇野会長ほかあびこ市民活動ネットワーク役員との懇談では「地域のお祭りに高齢者と子供の場を提案したが学校の賛同を得られず残念だった」といったことも話題になりました。

今年度も同様な会を持ちたいと思っています。追ってご案内申し上げますのでどうぞご参加ください。またこの会以外に個人活動についてのご提案などございましたらお申し越してください。さらにこういう活動主旨にご賛同の方はぜひ個人会員にご登録ください。
(担当幹事 重田幸子)

寄稿

嘉納家と我孫子の濃密な60年の関係

一 治五郎の死後、別荘は自宅だった一

我孫子の文化を守る会会長 美崎 大洋

「我孫子の文化を守る会」で昨年からは推進している「嘉納治五郎銅像建立」計画については既にいくつかの市民活動団体から協力や後援をいただいております。大変心強く感じています。また我孫子市教育委員会とも連携しながら展示会や「嘉納治五郎から学ぶ・連続講座」なども開催し、市民への理解と浸透を進めてまいりました。

嘉納治五郎別荘跡（我孫子市緑、天神山緑地）については治五郎家族が週末だけ過ごした、単なる別荘地として認識されていますが実は、治五郎の死後、治五郎の親族たちが、この別荘に住み続け、孫にあたる方は我孫子第一小学校を卒業し、昭和44年まで住んでいたことが最近判明しました。すなわち治五郎が亡くなってからも30年間、治五郎のご子孫たちが居住したことになります。

昭和13年、治五郎が亡くなると、治五郎が残した多くの借金のため（その借金は世のため人のため、教育や講道館柔道の発展のためのものだった）、

大塚坂下町の自宅は勿論、あちこちに所有していた土地や家屋はすべて人手に渡り、唯一残った我孫子の別荘に未亡人の須磨子と三男履方、長男の未亡人とその子供たちが移り住み、須磨子の死後も履方の遺児が母の波子とともに、昭和44年までこの地に住みました。つまり別荘としてではなく生活の本拠



地として活用していたこととなります。治五郎がこの土地を取得してから、通算すると約60年間に亘り、我孫子と嘉納家との間で濃密な関係が構築されていたのです。

何故、これらの事実がつい最近まで明らかになっていなかったということですが、治五郎の

遺した莫大な借金とその理由（おおっぴらに出来ない）だったのではないかと推測します。

我々としては今回の計画を「市民運動」として位置づけており、市民の皆様の理解とご支援を期待しています。我孫子市民全員の力で銅像建立を実現したいと思います。

市民のチカラまつり開催に向けて

市民のチカラまつり 2019 実行委員長 中條信三

今年の市民のチカラまつりは9月14日（土）、15日（日）の2日間に亘りけやきプラザ全館と周辺地域で開催されます。3月11日（月）に実行委員会を立ち上げこれまで4回の実行委員会と3回の団体説明会を行い開催に向けて着々と準備を進めております。6月30日現在で展示・体験部門に53団体、企画部門に10団体の参加申し込みがありました。あびこ市民活動ネットワークの参加団体からは展示・体験部門にふれあい塾あびこやガイドクラブ他15団体が参加予定です。又、企画部門には4団体が参加登録済みです。又、実行委員企画として12企画を予定しております。（ ）内はタイトルです。

- 1、革新塾と九条の会共催
（空と航空の安全—日本の平和を考える）
- 2、文化を守る会
（柔道入門・嘉納治五郎の書道）
- 3、景観を育てる会
（居ながら八景歩きを楽しもう—我孫子
いろいろ八景歩きのすべてを見せます）

4、あびこ市民活動ネットワーク

（プロダクティブエイジング講演会）

この市民のチカラまつりのキーワードは「多世代交流」です。去年はキャッチコピーとして「0歳から100歳～我孫子が大きな家族になる」を掲げました。今年は無アワー広告大賞や毎日広告デザイン賞優秀賞等を受賞された伝説のコピーライターとしてご活躍中の竹島靖氏の指導を受けながら主だった参加団体で検討・話し合った結果「やりたいことのない人もきっと見つかる楽しいイベント」をキャッチコピーとして取り決めました。

このテーマの下、参加全団体が創意工夫と趣向をこらし市民の皆様と親しく交流を図り大いに楽しんで頂ける象徴的なイベントを盛りだくさん用意してお待ちしております。去年は2,000人を越える市民の皆様にご来場いただきました。今年も昨年以上に活気溢れるそして存分に楽しんでいただけるよう実行委員一同、精一杯世話役を務めたいと考えています。

会員自己紹介

市民活動に参加してみたら

NPO 法人テラス 21 理事 小田麻子



新たにあびこ市民活動ネットワークの幹事になりました。小田と申します。私は16年前に学童保育の仲間と「NPO 法人テラスあびこ」（現テラス 21）を立ち上げました。“半塾学童”と多世代の居場所づくりがミッションでした。

理事が足りないので入ってほしい・・・と声がかかり、名前だけなら～と軽い気持ちで参加したのですが、実はその時、NPO とは何なのか、全く知りませんでした。

そんな私が、次第にメンバーが抜けていき、長く代表理事を務めることになりました。

図らずも関わった市民活動ですが、活動する中で多くの出会いと学びを得ることができました。一方で、我孫子や社会が抱える問題点も実感できるようになりました。長く都内で仕事をしていましたので、我孫子は夜帰って寝るだけのまち。正直 NPO に参加する以前は、地域の課題などには全く関心がありませんでした。

我孫子は都心へのアクセスも良く、自然環境にも恵まれた住み心地の良い、愛すべきまちです。皆が少しずつ得意な分野で力を発揮し、さらに住み良いまちになれば、本当に嬉しいですね！ どこまでお役に立てるかはわかりませんが、ちょっぴり新しい風が吹けば幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

■ 4 月度役員会 (4 月 11 日)

- 1、会報の発行について、4 月 15 日発行・印刷予定について確認した。
- 2、各分科会の今年度の取り組みについて種々論議し決定した。
分科会としてステーションと相談して行うことを確認した。
- 3、定時総会に向けて資料作成、次第等を論議した。
- 4、審議委員の選出依頼があり、生涯学習審議会委員栗原祐子氏、社会福祉協議会理事吉田充氏、総合計画審議会委員小田麻子氏を選出した。
- 5、市民のチカラ：9 月 15 日開催 実行委員長に中條信三氏が選出された。
- 6、事業計画に基づいて支援課との話し合いを定例的に行うことを了承。
- 7、補助金申請について (ニッセイ財団) 提案があったが今後に向けては助成金・補助金の利用を考えていくことになった。
- 8、人材バンクについて、ポータルサイトの構築を考えているとの報告があった。

■ 5 月度役員会 (5 月 9 日)

- 1、会報 50 号 7 月 15 日発行予定原稿の検討をした。
- 2、総会記念講演後の各分科会に於いて論議された内容の報告があった。
各分科会に担当を決め、分科会毎に会員の参加を呼び掛けていくこととした。
- 3、我孫子駅発車メロディ署名活動の協力お願いがあり (東葛飾高校 織田 涼佑君より) 論議した。

■ 6 月度役員会 (6 月 13 日)

- 1、指定管理者との協同事業について指定管理者と話し合ったことの報告があった。
防災 ①地域防災 自助力・近所力向上講座～6 月 8 日南まち協との共催事業
②地域防災リーダー育成講座～7 月 6 日 新木まち協との共催講座事業
③白山防災キャンプ 9 月
子ども応援団 原案を提案したが今後ステーション高橋氏と打合せ、決定する。
高齢者 分科会で【日常生活困ったときガイド】説明会を開催予定。
- 2、幹事分担の確認をした。
- 3、今年度市役所との懇談会について確認した。
①ゴミ焼却施設の建て替えについての説明会の開催
②高齢者分科会で地域包括ケアを視野に担当課との懇談会を開催
- 4、「市民のチカラ」に関して、現在までの進捗状況についての報告がなされた。

入 会 ふるさと我孫子ガイドの会

編集室から

- ◆次号は 10 月 15 日発行予定です。会報に、催し、求人、他の会員への呼びかけなどの掲載を希望される場合は、事務局 (メール a23se@cocoa.plala.or.jp) まで、9 月末日までに連絡ください。
- ◆アドレスご登録の会員には、この会報や、催しのご案内などをインターネットでもお届けしています。アドレスの新規登録、スマホメールをご希望の会員も上記にご連絡ください。
- ◆各団体の役員・担当者・連絡先等に変更があった場合は、その都度、あびこ市民活動ステーション Fax (04-7165-4370) または当会私書箱 N03 にご投函ください

あびこ市民活動ステーションからのお知らせ

今年も9月に市民のチカラまつりを行う予定ですが、目下はその準備を中心に事業を進めています。今年、子育て世代のママ達が行方委員会に入りましたので、去年以上に親子連れが増えることが期待できそうです。高齢者から子どもまで体験しながら、楽しく市民活動を知る機会として、市民のチカラまつりを広報していきます。

■市民のチカラまつり 2019 関係

5月末までに募集を締め切り、6月3日に参加団体の顔合わせ会を行いました。出席は32団体と申込団体の約6割、去年とほぼ同様の割合でした。お知らせや去年と違うところについての説明などもあるので、できれば8割以上の団体に参加していただきたいところです。ご都合で出席できなかった団体は、後でもよいので市民活動ステーションにご連絡いただければ、会議資料をお渡しします。市民のチカラまつりは参加団体全部で創るもの、どうかご協力をお願い申し上げます。

1. 実施日

9月14日（土）～9月15日（日） です。

2. 6月の学習会参加団体でつけたキャッチコピー

「市民のチカラまつり 2019～やりたいことのない人も、きっと見つかる楽しいイベント。」

3. 参加団体準備の会&交流会

実施前、最後の打ち合わせ会です。ブース位置や運営の最終確認を行います。

<日時> 9月3日（火）15:00-16:00 準備会
16:30-18:30 交流会

<場所> けやきプラザ9階ホール

交流会は、準備の都合で事前申し込みになります。1団体から複数人でも参加可能です。

会 費	1,000 円程度（飲み物、軽食）
申込期限	7月31日（水）

3. 学校配布用チラシの仕分け作業

市内の保育園・幼稚園・小中高校に配布するチラシを仕分けします。人数が多いほど作業が進みますので、

都合のつく団体はご協力をお願い申し上げます。

<日時>9月3日（火）10:00-12:00

<場所>あびこ市民活動ステーション

■閉館時間および臨時休館日のお知らせ

- ・8月3日（土）は、手賀沼花火大会につき、けやきプラザ全体が17時閉館となります。
- ・9月16日（月祝）は、市民のチカラまつり翌日のため、臨時休館とさせていただきます。

■『まち活マガジン』関係

この4月より、名称を『SKS ニュース』から『まち活マガジン』に変え、市民活動団体の紹介記事を中心に作成しています。部数も900部（去年より300部増）となり、市内公共施設、長寿大学、店などに配布しています。

○イベント情報を掲載したい団体は情報をお寄せください。毎月1日締め切りです。

○ぜひ読んでいただきたく、窓口でお渡します。必要部数をお伝えください。毎月1日に発行しています。